

令和7年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価（3月30日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①学力向上進学重点校エントリー校として学力向上と高いレベルでの進路希望実現に向け適切な教育課程を編成するとともに、不断のカリキュラムマネジメントにより授業改善・教育活動の充実に取り組む。</p> <p>②知識の習得とともに、生徒が主体的に学ぶ意欲を高め、自ら課題を発見し解決する探究力や思考力・判断力・表現力を育成する。</p> <p>③学校行事や生徒会活動等を通じ達成感を得ることで生徒の自己肯定感を高め、成長を促す。</p>	<p>②授業をとおして自ら考えて答えを出す生徒を育成するための環境づくりを進める。</p> <p>③学校行事及び生徒会活動を充実させ、主体性、協働する力を育成する。</p>	<p>②探究学習の内容の見直しをすすめる。その際進路学習で触れる内容と関連させることで学習内容の深化を図る。</p> <p>③計画的に委員会や生徒会本部会議を開催し、生徒の意見を学校行事や学校生活に反映させる。また、これまでの学校行事、学校生活を振り返り、より良い学校行事、学校生活となるように主体的に関わり、協働する力を育成する。</p>	<p>②「生徒による授業評価」「生徒による学習の自己評価」「学習成果発表会」「職員からのフィードバック」の結果を総合評価とする。</p> <p>③生徒が学校行事や学校生活について考え、意見を出し、実施に向けた方策を十分に考えられたか。また、それらを反映させることができたか。(担当者評価)</p> <p>多くの生徒が、学校行事を協働、創造する機会ととらえ、主体的に取り組めたか。(生徒アンケート)</p>	<p>②1年間探究学習を推し進めてみて課題が山積みになり、達成できたとと言える状況にはかなり遠い。</p> <p>③計画的な会議を通して、生徒の意見を反映した学校行事にすることができた。また、生徒会本部役員を中心として生徒発案の活動が活発となった。ほぼ全ての生徒が学校行事に対して肯定的に取り組めたと回答しているが、各行事の目標をそれぞれが理解し、主体的に取り組んでいるわけではなかった。</p>	<p>②探究学習のテーマ(問い)の決定や仮説の立て方とフィードバックを少ない時間の中で盛り込んだ計画を立案中である。</p> <p>③生徒会本部役員や各種実行委員の考えや狙いを彼らの声を通じて生徒に届け、より多くの生徒が主体的に取り組む雰囲気醸成する。</p>	<p>②公開研究授業の協議に生徒が参加する機会がある点が評価できる。学力だけではなく、応用力などが大事であるという見解に中学生は惹かれている。</p> <p>③生徒会行事の継続性を生徒自らが主体的に取り組めるようにするのが課題である。進学以外にも部活動などにおいて多様な魅力づくりをして発信していくべきである。</p>	<p>②生徒による評価結果からも、探究力や思考力・判断力・表現力を意識した探究活動が概ねできていた。探究活動において、生徒による問いや仮説の立て方に課題が残る。質の向上を図るための手立てが必要である。</p> <p>③教職員主体から生徒主体の行事運営に変わったことにより、生徒の主体性や自己肯定感を高めることができた。学校行事の充実に、まだ教職員の様々な支援が必要な状況であり、計画から実施までを生徒が仕切り、それを継続して続けていく仕組み作りが必要である。</p>	<p>②自走探究プロジェクト「Time Tact」を導入し、問いや仮説立ての際の支援を行いながら、生徒による探究学習の深化を図る。</p> <p>③生徒会本部役員や各種実行委員に計画から実施までの業務を任せ、それをマニュアル化することにより生徒主体の継続した学校行事運営を行う。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①学校生活の様々な場面で社会規範や自己管理能力等社会人として必要な資質を身に付けさせる「人づくり」を行う。</p> <p>②部活動を通じて社会性や自主性、協調性を涵養するとともに、達成感を得ることで生徒の自己肯定感を高め、成長を促す。</p> <p>③生徒一人ひとりの個に応じた組織的な教育相談体制を充実させる。</p>	<p>①軸のある指導と多様な支援を通して、生徒の規範意識の向上や、自己管理能力を育成する。</p>	<p>①学校生活を通して、授業内の規律や、集会等での講話などで生徒に規範意識の向上を促していく。また、授業や行事など様々な活動を通して、主体的に行動するとともに、自己管理の視点を持たせる。</p>	<p>①学校生活の中で、時間を守る、ルールを守ることなど当たり前な行動ができたか。特別指導等の件数や事案を過去の状況と比較し、問題行動を抑止することができたか。</p>	<p>①全校集会や各学年を通じて指導を継続したことにより、特別指導などにつながる問題行動を抑止することができた。</p>	<p>①規範意識等の向上はみられたが、依然として生徒相談の件数は変わらない状況にあり、指導・支援ともに継続していかなければならない。</p>	<p>①かながわサポートドックが機能しているか気になる。データから見られる生徒の傾向を知りたい。校舎の立地の問題で公道を生徒が移動することによる地域住民との関係が課題である。歩行について一定のルールを作るとよい。</p>	<p>①学校生活を通じて、社会規範や自己管理能力など、社会人として必要な資質を身に付けさせることができた。登下校時の自転車や歩行マナーについて県民の方から指摘されることがあり、交通安全マナーを充実していく必要がある。</p>	<p>①次年度より自転車の罰則が強化され、違反をすれば反則金を課せられることもある。新制度の共有を含め、学校全体で交通安全マナーの徹底を図る。</p>

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<p>①国際社会や地域社会で活躍できる高い資質・能力を持った人材を育成するため、学校外の教育力も活用してキャリア教育、グローバル教育を充実させる。</p> <p>②生徒が行きたい進路先に行けるよう、体系的な3年間の進路指導プログラムを計画・実践するとともに、適切な支援を行い、高いレベルでの進路希望を実現させる。</p>	<p>②各自の進路について自発的に、深く考えられるような機会を提供し、意欲的でより高いレベルで進路選択が行えるように働きかける。</p>	<p>②大学訪問・大学出張講義・インターシップ、オープンキャンパスへの参加を通じて進路に対する意識を高める。朝補習・夏期講習等を通して、着実な学力を身につけさせる。</p>	<p>②各自の志望する進路先に進むことができたのかを3年4月の進路希望調査や卒業直前の進路アンケートの結果を通して検証する。</p>	<p>②大学訪問・大学出張講義により、より早い段階から進路への意識付けが根付いた。</p>	<p>②大学訪問・大学出張講義のアンケートの結果から、生徒の求めているものを提供できた。卒業時のアンケートから、80%以上の生徒が進学してよいと思う大学に合格した。</p>	<p>②東京大学合格者が出ているように、最難関大学受験に挑戦する雰囲気醸成されており、学校が良い方向に向かっている。進路指導については保護者として充実していると感じる。</p>	<p>②大学訪問やオープンキャンパスへの計画的な参加を通じて、早い段階から進路への意識付けを行うことができた。国公立大学への受験ニーズに対応したカリキュラムの構築が必要である。</p> <p>②様々な生徒の受験ニーズに対応していくためのカリキュラムの改善を図る。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域や家庭との連携・協働による教育活動を推進し、地域・家庭の期待や信頼に応える学校づくりを進める。</p> <p>②学校の魅力や特色及びスクールポリシー等学校の情報を積極的に外部へ発信する等広報活動に努め、本校の求める生徒像を明確にするとともに、ミスマッチを未然に防ぎ本校で学びたいと望む志願者を増やす。</p>	<p>①地域と学校の交流行事を充実させ、地域や家庭に本校の魅力を知らせ、期待や信頼に応える学校を目指す。</p>	<p>①北陵祭では、湘南地区の飲食店等を招致し、地域の活性化と交流を図る。生徒会や部活動の活動を通じて、地域との交流の機会をもつ。中学校訪問を行い、本校の魅力を周知し、本校が求める生徒の入学者を増やす。</p>	<p>①地域と十分に連携・協働が図られたか。本校の魅力が発信できたか。</p>	<p>①北陵祭では、湘南地区の飲食店等を招致し、地域の活性化と交流を図る試みを生徒自身がアンケートを行い生徒の希望になるべく添う飲食店を選ぶことができた。総務管理Gで原則1人1校、中学校訪問を行い、本校の魅力を周知することができた。</p>	<p>①同じように生徒自身がアンケートを行い、招致する予定だが、アンケート内容を再考し、より生徒の希望に添える飲食店を招致することを目指す。総務管理Gで原則1人2校、比較的近いが、希望者が少ない中学校か、毎年多くの希望者を送っていた中学校を中心に訪問する予定である。</p>	<p>①宇宙教室、遺跡見学会、文化祭での遺跡展示など、地域との協働について効果があった。一方で、近隣住民との接点が少なく、地域に根ざした学校運営には課題が残る。また、地区外の中学校に本校があまり知られていない現状がある。</p>	<p>①近隣のイベントへ積極的に関与したり、合同で行事を実施したりするなど、地域連携に向けた活動を検討していく。また、広報活動の充実に向け、PRポスターの作成など、周知に向けた手立てを行う。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①日常的な研修や声かけを通じ「北陵から事故を出さない」という強い気持ちを職員が持つことで職員一人ひとりの危機管理意識を高め、業務の共有・協働・効率化を進め、不祥事を防止する。</p> <p>②生徒が安心安全に学校生活を送ることができるよう学習環境や防災体制の整備に取り組む。</p> <p>③円滑で効率的な学校運営のため常に業務の検証、改善を図り、風通しのよい職場づくりを進めるとともに、教員の働き方改革に取り組む。</p>	<p>①事故・不祥事防止研修を行い、教職員ひとりひとりの危機管理意識を高めるとともに、業務の共有・協働・効率化を図り、未然に不祥事を防止する。</p> <p>③子どもたちにより良い教育を提供するため、教職員の業務負担を軽減するとともに、教職員のウェルビーイング向上を目指す。</p>	<p>①教職員が主体となって事故・不祥事防止研修を実施し、意識向上を図る。各グループで業務の効率化を進め、会議等で意見交換を行いながら共通認識の醸成を図り、不祥事を未然に防止する。</p> <p>③勤務時間外の電話への自動音声応答の導入や保護者との迅速な連絡・情報共有を図るための学校・家庭連絡システムの導入、採点業務の効率化に向けた採点システムの導入を進めながら教職員の負担を軽減していく。</p>	<p>①事故・不祥事研修を通じて、教職員一人ひとりの意識が向上し、事故・不祥事を未然に防ぐことができたか。(職員間評価)</p> <p>③職員の負担軽減ができたか。また、ウェルビーイングの向上につながったか。(職員間評価)</p>	<p>①人選した教職員3名が講師となり、全教職員に向けた講義、グループ協議を実践し、事故・不祥事防止の意識向上を図った。</p> <p>③自動音声応答電話の導入により、勤務時間外の業務負担が削減できた。また、学校・家庭連絡システムの導入が本格化に向けて試行段階である。</p>	<p>①事故・不祥事防止研修が教職員主体の研修となるよう、各グループのローテーションで研修計画を立てて実施するなど組織的な工夫が必要である。</p> <p>③学校・家庭連絡システムは次年度より本格導入するが、現段階では携帯電話からの連絡送信が可能となっておらず、非常に備えて業務用PCを持ち歩く必要がある。</p>	<p>①教職員主体の研修を行い、教職員ひとりひとりの危機管理意識を高めることができた。教職員主体の研修が単発で終わらないよう、教職員全体で研修に取り組む仕組みづくりが必要である。</p> <p>③教職員の業務負担軽減に向けた様々な事業を導入することができた。全教職員がこの事業を無理なく活用できるよう情報の共有や研修が必要である。</p>	<p>①事故・不祥事防止研修を分掌ごとにローテーションで計画・実施するなど、教職員主体の研修体制を構築する。</p> <p>③学校・家庭連絡システムの丁寧な情報共有を行うとともに、採点システムの本格的な導入に向けた研修を実施していく。</p>